

教育研究等活動業績

山梨英和大学

フリガナ 氏名	性別	生年(西暦)	職名	所属
スキムラ アツシ 杉村 篤志	男性	非公表	専任講師	人間文化学部人間文化学科
取得学位称号		専門分野		
学 歴	2007年	3月	東京大学文学部言語文化学科英語英米文学専修過程卒業	
	2016年	8月	東京大学大学院人文社会系研究科欧米系文化研究専攻 言語文化学科博士課程 博士論文予備論文提出	
	2016年	10月	同上博士論文提出資格者認定	
	2016年	10月	University of California, Berkeley, Mark Twain Papers & Project, 客員研究員 (J-1 Research Scholar)	
実務 経 験	2015年	4月	日本学術振興会特別研究員DC2	
	2017年	1月	University of California, Berkeley, Center for Japanese Studies (英→日学術翻訳、アカデミック・ライティング担当)	
受 賞 歴	2017年	3月	FUTI Global Leadership Award	
	2021	3月	2020年度 山梨英和大学ベストエデュケーター賞	
所 属 学 会	2007年	4月	日本アメリカ文学会	
	2007年	4月	日本マーク・トウェイン協会	
	2008年	4月	日本英文学会	
	2016年	8月	Children's Literature Association	
	2016年	8月	Mark Twain Circle of America	
2018年	1月	American Literature Association		
特免資 許許格 等 . .				
e-mail	非公表			

目 次

○教育業績

教育理念、方針、方法

教育能力

教育方法実践例

作成した教科書、教材等

教育方法や実践に関する発表、講演等

担当授業科目

代表的なシラバス

教育改善活動

教育能力に対する評価

○研究業績

研究の特徴

研究経歴

研究実績

著書

学術論文

その他の研究活動

競争的資金採択課題

学会等発表、役員参加

共同研究・受託研究の実績

大学院生指導

研究能力に対する評価

○サービス活動業績

学内委員会・作業部会等活動実績

アドバイザー活動実績

後進育成活動実績

社会貢献活動

○専門的活動(教育業績、研究業績、サービス活動業績)の統合による成果と目標

専門的成果

専門的目標

○添付資料

完全リスト(研究実績、競争的資金採択課題、学会等発表・役員参加、共同研究・受託研究の実績、
学内委員会・作業部会活動実績)

サンプル(教育能力、代表的なシラバス、教育改善活動、大学院生指導、アドバイザー活動実績、
後進育成活動実績、社会貢献活動)

評価結果(教育能力に対する評価、研究能力に対する評価)

専門的成果のエビデンス

教育業績

教育理念、方針、方法	<p>思考の自由の感覚と相互尊重の姿勢を促進することを重視している。授業運営に際しては、明るく和やかなクラスの雰囲気をつくることを心がけている。安心感のある対話的・互恵的な学習環境を構築し、本学での学びの経験が学生の自信形成と相互理解の深化に絶えず繋がるようにしたい。</p> <p>専門分野教育の概括的到達目標としては、履修学生の関心・資質を踏まえたうえで、英米文学・文化テキスト、関連日本語テキストの読解を通して主に、①人間存在の複雑性と文化多様性に対する豊かな感受性、②「自分たちが現在どのような歴史的到達点・文明空間において生きているのか」を自覚するために必須となる歴史感覚と国際的視野、③女性や少数者集団の社会的抑圧と権利獲得の歴史、それらにまつわる大衆表現と現代的課題についての基礎的理解、④「わたしたち」をめぐる各種文化言説を相対的に把握するための批判的思考力―これらを多面的に涵養することが挙げられる。</p>
教育能力	<p>(1)教育方法実践例 オンライン教育ツールを活用しながら、学生間の意見交換を多面化・活発化した。「英米文学史」では、米作家スティーブン・キングの断章をもとに、学生各自が挿絵と物語を作成し、それらを小冊子にまとめた。また、米国人若手比較文学研究者をゲスト講師として招き、授業後に自由参加のティータイムを企画した。</p> <p>(2)作成した教科書、教材等 学部1年生必修科目「基礎ゼミナール」用共通教材と教案(「クリティカル・リーディング」) 小冊子「スティーヴン・キングのうさぎ―40ストーリーズ」(「英米文学史」)</p> <p>(3)教育方法や実践に関する発表、講演等</p>
担当授業科目	英米文学史、英米文学購読、英語1b、英語2d、英語3、展開ゼミナール、専門ゼミナール、卒業プロジェクト研究、Globalization and Culture II, Public Speaking & Debating
代表的シラバス	<p>英米文学講読</p> <p>豊かな感受性と伸びやかな独立心をもつ「アメリカ的な少女」の理想像ジョー・マーチとその姉妹の暮らしを描いたアメリカ小説の古典、ルイザ・メイ・オルコット『若草物語』(Little Women, 1868)を翻訳で読みます。英語原文も適宜参照します。日本においても長年多くの読者に親しまれ、TVアニメ化もされてきた作品です。本科目では、①19世紀アメリカにおける女性の理想像の変遷、②女性の社会的役割の変化、③それらの歴史的背景について検討しながら『若草物語』の世界を丁寧に味わっていきます。日米間の比較文化的考察も行います。</p>
教育改善活動	<ul style="list-style-type: none"> ・2021年度第1回FD研修会「外部資金採択研究の紹介」講師(2021年7月28日、山梨英和大学) ・2021年度第2回FD研修会「効果的授業実践の検討」講師(2021年9月10日、山梨英和大学)

教育能力に対する評価	<p>(1) 学生による授業評価</p> <p>英米文学系科目、2年生以上対象の英語科目は、授業評価アンケート結果に照らせば概ね好評と見てよさそうである。課題としては、1年次必修英語科目で出席回数が基準に達しない不合格者が多いことが挙げられる。学生相談室や保健室と緊密に連携をとりながら、個々の学生の学習サポートをよりきめ細やかなものにしていきたい。</p> <p>(2) 同僚教員等による授業評価</p> <p>2020年度「山梨英和大学ベストエデュケーター賞」受賞</p>
------------	--

研究業績

研究の特徴	<p>合衆国における白人至上主義を背景とした「ホワイト・アメリカ」の国家神話の成立過程とその社会心理的影響に着目して、米小説における自伝的構築と人種表象の複層的連関について考究している。主要分析対象としては、マーク・トウェイン、エドガー・アラン・ポー、キャサリン・セジウィック、ナサニエル・ホーソン、ウィラ・キャザー、フランシー・オコナー、ジャック・ケルアックなどの作品が挙げられる。実証的方法論については1990年代以降のポストコロニアル批評や新歴史主義の議論の成果を引き継ぎ、分析アプローチにおいてはジュディス・バトラー、バーバラ・ジョンソン、イヴ・セジウィックらによるジェンダー／セクシュアリティ研究や自伝分析の手法から多くの重要な示唆を得てきた。</p>
研究経歴	<p>2015年 日本学術振興会特別研究員DC2</p> <p>2016年 University of California, Berkeley, Mark Twain Papers & Project 客員研究員(米国)</p> <p>2018年 Elmira College Center for Mark Twain Studies Quarry Farm Fellow (米国)</p>
研究実績	<p>(1) 著書</p> <p>(2) 学術論文</p> <p>「アブジェクションの詩学—ナサニエル・ウェストの30年代ハリウッド」『リベラス』22号, 2010. pp. 17-29.</p> <p>「ウィリアム・ウィルソン」における奴隷制表象と1830年代政治言説『アメリカ文学研究』47号, 2011. pp. 1-17.</p> <p>「都市の身体／身体の都市—ソール・ベロー『グリーン氏探索』における労働と倫理」『リベラス』24号, 2012. pp. 23-28,</p> <p>“Omission, Redundancy, and Fluctuation: The Authorial Voice of Hawthorne’s <i>Twice-Told Tales</i>.” <i>Strata</i> 27, 2013. pp. 1-13.</p> <p>“Recollecting the Fragmented: Thematic Convergence and the Dynamics of Empathy in <i>The Stories of Bleece D’J Pancake</i>.” 『れにくさ』5号, , 2014. pp. 331-339.</p> <p>“Puritan Ethics and Culture of Widowhood: The Rhetoric of Perception and Desire in Hawthorne’s ‘The Wives of the Dead.’” <i>Libertas</i> 27, 2015. pp. 1-8.</p> <p>“‘Heavenly War-Paint’: Mark Twain’s Courtship and His Suppressed Identity as a Southerner.” <i>Studies in English Literature</i> 57, 2016. pp. 41-58.</p> <p>「卵のかなしみ—シャーウッド・アンダソン『卵の勝利』における人種、重力、発話困難性」『山梨英和大学紀要』19号, 2021. 1-12.</p>

	<p>「エイハブの挿入, イシュメールの抹消— ジャック・ケルアック『オン・ザ・ロード』におけるメルヴィルの含意とテキスト生成過程」『山梨英和大学紀要』21号, 2023. 53-62.</p> <p>「F・スコット・フィッツジェラルド「冬の夢」と『グレート・ギャツビー』における著者性, 転置, 同一化の諸相」『山梨英和大学紀要』21号, 2023. 53-62.</p>
<p>研究実績</p>	<p>(3) その他の研究活動(国際会議発表、学術誌編集、学術論文査読等)</p> <p>(翻訳)メアリー・ナイトン「トウェイン『ジャンヌ・ダルクについての個人的回想』に秘められた<声>に耳をそばだてること」『マーク・トウェイン—研究と批評』16号(特集・トウェインと女たち), 2017. pp. 20-26.</p> <p>(国際学会総評)「『笑いの襲撃』と『われらのトウェイン』をめぐって」『マーク・トウェイン—研究と批評』17号, 2018. pp. 70-71.</p> <p>(書評)「書評—R. Kent Rasmussen ed., <i>Critical Insights: Adventures of Huckleberry Finn</i>」『マーク・トウェイン—研究と批評』18号, 2019. pp. 36-38.</p> <p>(国際会議プロシーディング、査読あり)“‘I Killed Thirty-Eight Persons’: Sam Clemens and the Sioux Wars, 1862/1876.” Abstracts, pp. 37-38. 8th International Conference on the State of Mark Twain Studies, Elmira College, New York, USA.. Aug 2017.</p> <p>(国際会議発表、査読あり)“Absolute Monarchs in America: Mark Twain, Brigham Young, and the Burden of the ‘Peculiar Institution.’” American Literature Association (ALA) 29th Annual Conference on American Literature, Hyatt Regency San Francisco, California, USA, May 2018.</p> <p>(国際会議プロシーディング、査読あり)“‘Her Adored Moral Half-Breed: Mark Twain’s Refracted Autobiography and His “Playing Indian.” Program, pp. 57-58. 9th International Conference on the State of Mark Twain Studies, Elmira College, New York, USA.</p>
<p>競争的資金採択課題</p>	<p>科研費特別研究員研究奨励金・奨励費(2015-2017) 「19世紀アメリカ小説における奴隷制廃止論とインディアン問題—トウェインを中心に」(課題番号: 15J10240)</p> <p>Renée B. Fisher Foundation Grant via Elmira College Center for Mark Twain Studies (2017).</p> <p>科研費研究活動スタート支援(2019-2021)「マーク・トウェイン初期作品における自伝的構築と北米先住民表象の黙說的連関」(課題番号: 19K230890001)</p>

<p>学会等発表・役員参加</p>	<p>2016年 9月</p>	<p>『大昔の怨み』をめぐって—Mark Twain, “The Facts Concerning the Recent Carnival of Crime in Connecticut”における自伝的構築の諸相とダコタ戦争1862」日本アメリカ文学会関西支部9月例会, 武庫川女子大学.</p>
	<p>2017年 8月</p>	<p>“‘I Killed Thirty-Eight Persons’: Sam Clemens and the Sioux Wars, 1862/1876.” 8th International Conference on the State of Mark Twain Studies, Elmira College, New York, USA.</p>
	<p>2018年 5月</p>	<p>“Absolute Monarchs in America: Mark Twain, Brigham Young, and the Burden of the ‘Peculiar Institution.’” American Literature Association (ALA) 29th Annual Conference on American Literature, Hyatt Regency San Francisco, California, USA, May 2018.</p>
	<p>2022年 8月</p>	<p>“‘Her Adored Moral Half-Breed: Mark Twain’s Refracted Autobiography and His “Playing Indian.”’ 9th International Conference on the State of Mark Twain Studies, Elmira College, New York, USA.</p>
	<p>2022年 10月</p>	<p>『ホワイトウォッシュ』される父—マーク・トウェインとオリヴィア・ラングドン の自伝的虚像とFollowing the Equator草稿上の対話をめぐって」日本マーク・トウェイン協会第26回全国大会シンポジウム「マーク・トウェイン文学の草稿研究をめぐって」オンライン</p>
<p>受託共同研究の実績</p>		
<p>大学院生指導</p>		<p>University of California, Berkeley, Center for Japanese Studies (日→英学術翻訳、アカデミック・ライティング担当) 受講者は比較文学部、歴史学部、フィルム・メディア学部、仏教学部などに在籍する博士課程大学院生。院生各自の研究プロジェクトにおいて重要な参照項となる日本語学術文献の英文翻訳の指導を行う。翻訳原書は蓮實重彦『監督 小津安二郎』、斯波義信「宋代の都市化を考える」、荒井健『「滄浪詩話」と「潜溪詩眼」——宋代詩學おぼえがき』、大谷勝真『三階某禪師行状始末に就いて』、大庭脩「唐告身の古文書学的研究」など。上記翻訳プロジェクトと併せて、中間口頭発表、学期末エッセイ執筆についても指導を行った。</p>
<p>研究能力に対する評価</p>		<p>Duke University Press発行<i>American Literary Scholarship</i> 2010年度号、2016年度号に論文紹介レビューが掲載された。(『ウィリアム・ウィルソン』における奴隷制表象と1830年代政治言説 [2011])、 “‘Heavenly War-Paint’: Mark Twain’s Courtship and His Suppressed Identity as a Southerner” [2016]) 米国内外の研究者11名とともに、2018年度 Center for Mark Twain Studies Quarry Farm Fellowとして選出された(2018年1月)。同FellowとしてMark Twainが代表作を執筆したQuarry Farmの邸宅に単独調査滞在、Elmira College Mark Twain Archiveスタッフの協力を得て文献調査・フィールドワークを行う。 https://marktwainstudies.com/fellowships/2018-quarry-farm-fellows/</p>

サービス活動業績

学内委員会・作業部会等 活動実績	2019年 4月 国際交流室主任 2019年 4月 宗教委員会運営委員 2019年 4月 学生サービス部運営委員 2019年 4月 情報メディアセンター運営委員 2019年 4月 入試・広報部運営委員 2019年 4月 英語教育改革委員 2020年 4月 宗教委員会運営委員 2021年 4月 国際交流室長 2021年 4月 英語強化プログラムチーフ 2021年 4月 大学運営評議会評議員 2021年 4月 学生部運営委員 2021年 4月 付属図書館運営委員 2021年 4月 メイプルカレッジ運営委員
アドバイザー活動実績	グローバル・スタディーズ領域専門ゼミナール。外部奨学金獲得のための個人指導、推薦状執筆などを行った。2020年度はアドバイザー学生3名はそれぞれ2つの学外給付奨学金、1つの学内給付奨学金を獲得した。
後進育成活動実績	特になし。
社会貢献活動	(1)講演会 (2)出前講座 (3)公開講座 2018年 9月 国際基督教大学。英語招待講義(全学対象) “Voices of Conformity and Defiance: Tomboys, Slavery, and the Cult of True Womanhood” (4)学外審議会・委員会等
社会貢献活動	(5)その他(高校生対象) 2019年 7月 山梨県立塩山高校 大学系統別説明会講師(1、2年生担当) 2019年 8月 オープンキャンパス模擬授業 「19世紀アメリカ小説における『いい子』と『わるい子』」 2021年 3月 山梨県立富士河口湖高校 系統別進路説明会 言語・国際系講師(1年生担当)

成果と目標

専門的成果	<p>①国際学会8th International Conference on the State of Mark Twain Studiesにおける研究発表で、トウェイン作品における北米先住民表象について新たな批評的視座を示した。 発表原稿全文とPowerPointスライドは2017年12月、Center for Mark Twain Studies ウェブサイト「研究」欄記事として単独掲載された。</p> <p><http://marktwainstudies.com/i-killed-thirty-eight-person-sam-clemens-the-sioux-war/></p> <p>②国際学会American Literature Association (ALA) 29th Annual Conference on American Literatureにおける研究発表で、トウェイン作品におけるモルモン教徒表象を1850年代後半の民主党の政治戦略と南北戦争の歴史的文脈に照らして精査した。</p> <p>③米国内外の研究者11名とともに、2018年度 Elmira Collage Center for Mark Twain Studies Quarry Farm Fellowとして選出、マーク・トウェインが代表作を執筆したクォリー・ファームの邸宅に単独滞在し、エルマイラ大学の専門スタッフの支援を受けて各種文献調査、フィールドワークを行った。</p> <p>④国際学会9th International Conference on the State of Mark Twain Studiesにおける研究発表で、トウェインの未発表原稿における「インディアンごっこ」(playing Indian)の主題の伝記的・文化史的背景について検討した。</p>
専門的目標	<p>①トウェイン初期テキストにおける自伝的構築と北米先住民表象の黙說的連関を、「脱南部化した南部人」としてのトウェインの倫理的アンビヴァレンスに焦点をあてて検証する。</p> <p>②上記の議論を、Lucy Maddoxらによって指摘されてきた「米文学研究におけるネイティブ・アメリカンの周縁化」問題への現代的応答のひとつとして位置づける。</p> <p>③近年のアメリカ研究領域における“Transnational Turn”への応答性を念頭に置きながら、2000年代以降の大江健三郎作品におけるトウェイン的主題の諸相を、大江の『ハックルベリー・フィンの冒険』への言及過程に焦点をあてて精査する。</p>

作成基準日	2023年3月31日
-------	------------